

**BigFix Lifecycle**  
**Power Management ユーザーズ・ガイド**



## Special notice

Before using this information and the product it supports, read the information in [Notices](#).

## Edition notice

This edition applies to BigFix version 10 and to all subsequent releases and modifications until otherwise indicated in new editions.

# 目次

<b>第 1 章. 概要.....</b>	<b>6</b>
システム要件 .....	6
定義 .....	7
主な機能 .....	8
ダッシュボードの概要.....	9
「電源管理適用状態チェック」ダッシュボード.....	10
「消費電力要約」ダッシュボード.....	12
<b>第 2 章. Power Management の使用.....</b>	<b>17</b>
省電力ストラテジー.....	17
消費電力低減.....	17
電源プロファイルを管理.....	18
現在の電源状態を変更.....	19
休止状態にならない PC を管理.....	19
スタンバイ時の動作を管理.....	20
<b>第 3 章. ウェークアップ時の動作を管理.....</b>	<b>22</b>
セットアップ.....	22
Wake-On-LAN スケジュール.....	23
Wake-from-Standby スケジュール.....	25
Wake-from-Standby タスク.....	25
構成.....	26
ラストマン スタンディングを管理.....	26
Wake-On-LAN フォワーダーを管理.....	28
マジック パケットによる Wake-from-Standby.....	29
Wake-on-LAN Medic とともに Intel vPro を使用したエンドポイントのウェイクアップ.....	31
<b>第 4 章. Web レポート.....</b>	<b>34</b>
モデルの省電力.....	36
時間の経過に伴う消費電力.....	36
週次の時間の経過に伴う消費電力.....	38
電源管理に関する日単位のアクティビティー状態の明細.....	39
週次の時間の経過に伴うアイドル時間明細.....	39

電源管理設定.....	40
Wake-On-Web.....	41
<b>付録 A. Support.....</b>	<b>43</b>
<b>付録 B. よくある質問 .....</b>	<b>44</b>
Notices.....	xlvii

# 第1章. 概要

BigFix® Power® Management ソリューションにより、IT 組織は保全ポリシーをエンタープライズ全体に適用できるとともに、これらのポリシーを單一コンピューターに適用できる細分性も提供されます。具体的には、ネットワーク内のコンピューターについて、消費電力設定をモニターし、管理し、制御することができます。

ユーザーズ・ガイドでは、Power® Management の主な機能のいくつかと、それらのメリットを適用環境内で最大限に利用する方法について説明します。ご使用の環境に Power® Management コンポーネントをインストールしてアクティブにする方法について詳しくは、「Power® Management セットアップ・ガイド」を参照してください。

Power® Management では、多数の機能がサポートされています。例えば以下のものがあります。

- コンピューターの電源設定および電源ポリシーの管理
- 消費電力、潜在的な省電力量などの測定を含む、コンピューターの消費電力のトラッキングおよびレポート作成
- コンピューター状態のトラッキング。これにより、省電力量を最大にする電源ポリシーを作成できます。
- ラストマン・スタンディング、Wake-on-LAN Medic、スケジュールされたウェークアップ時間などを含む、拡張 Wake-on-LAN 機能（ネットワーク変更は不要）
- 休止状態にならない PC の検出および防止のサポート
- クライアント・サイド・ダッシュボードでの消費電力の表示

## 新機能

BigFix Power Management には、以下のバージョンの Microsoft Windows と Mac OS X を含むための拡張サポートが用意されています。

- Windows 8.1
- Windows 10
- Windows Server 2016
- OS X 10.9
- OS X 10.10
- OS X 10.11
- macOS 10.12
- macOS 10.13
- macOS 10.14
- macOS 10.15

## システム要件

BigFix Power Management は、以下の Windows バージョンおよび Mac バージョンをサポートします。

### Windows

- Windows 2008
- Windows 2008 R2

- Windows Server 2012 R2
- Windows 7
- Windows 8
- Windows 8.1
- Windows 10

## Mac OS

- Mac OS 10.4
- Mac OS 10.5
- Mac OS 10.6
- Mac OS 10.7
- Mac OS 10.8
- OS X 10.9
- OS X 10.10
- OS X 10.11
- macOS 10.12
- macOS 10.13
- macOS 10.14
- macOS 10.15

\*Microsoft XP、Windows Vista、および Windows 2003 はサポート終了日 (EOL) に達しました。Microsoft 製品には、製品がサポートされなくなると終了するライフサイクルがあります。製品が EOL またはサポート終了日に達すると、Microsoft はその製品の更新 (自動修正、更新、およびオンライン・テクニカル・アシスタンスを含む) をサポートおよびリリースしなくなります。

一方、BigFix は、サポート終了日に達した製品に対しては、セキュリティー・コンテンツおよび非セキュリティー・コンテンツの提供やサポートの提供を現在行っていません。ただし、既存の Windows コンテンツのユーザーは、問題の提起やトラブルシューティングのサポートのために、標準の HCL サポート・チャネルを使用できます。

Microsoft は、生産終了に達した一部の製品の延長サポートを提供します。Microsoft と延長サポートを契約した場合は、HCL アカウント担当者にご連絡ください。製品オファリングについての情報を表示するには、<https://www.hcltech.com/software#products> を参照してください。

## 定義

このセクションでは、Power Management の共通用語を定義します。

### アクティブ電源状態

ユーザーがコンピューターで作業中で、いずれかの入力デバイス (具体的にはマウスまたはキーボード) を使用しているとき、コンピューターはアクティブな電源状態にあります。この状態にあるコンピューターは、最大の電力を消費するとみなされます。

### CO2 排出量

二酸化炭素 (CO<sub>2</sub>) は主な温室効果ガスの 1 つであり、発電は最大の二酸化炭素排出源の 1 つです。発電量 1 kWh 当たりの二酸化炭素排出量は、発電形態によって大きく異なります。例えば、水力発電所と原子力発電所は二酸化炭素を排出しませんが、石炭火力発電所はかなりの量の二酸化炭素を排出します。

### アイドル電源状態

この状態は、最大の電力を消費しているとみなされるが、ユーザーはシステムとアクティブに対話していないません。多くの場合、アイドルな電源状態は電気の無駄使いとみなされます。コンピューターが低電力モードになっていないが、使用されていないためです。

### Power®オフ状態

コンピューターの電源がオフです。

### Power®状態

システム Power® 状態は、システムの全体的な消費電力を定義します。BigFix Power® 管理は、主に次の 4 つの電源状態を追跡します。「アクティブ」、「アイドル」、「スタンバイ」、または「ハイバネーション」、そして「Power® オフ」です。「アクティブ」、「アイドル」、「スタンバイ」、および「電源オフ」の定義エントリーを参照してください。

### kWhあたりの価格

これは、電気料金の支払い額です。1 kWh は、1,000 ワットを 1 時間使用した場合の電力量に相当します。基準点として、標準的なデスクトップおよびモニターは、1 kWh の電力量で約 6 時間稼働します。北アメリカの多くの地域では、1 kWh の標準コストは 0.10 ドルです。ただし、電気料金は地域や電力会社によって大きく異なり、コンピューターのモデルによって消費電力も異なります。

### スタンバイ電源状態

「スリープ」または「ハイバネーション」とも呼ばれます。この状態は低電力モードであり、ユーザーの作業セッションがメモリーまたはディスクに保存されます。

### Wake-on-LAN

Wake-on-LAN (WoL) は、マジック・パケットと呼ばれる特定のネットワーク・パケットをコンピューターに送信することによってそのコンピューターをウェークする標準メカニズムです。多くのネットワーク環境では、他のサブネットからのブロードキャストに関するネットワーク制限があるため、Wake-on-LAN を行うことは困難です。BigFix Power Management は、同じサブネット内にある近くのエージェントから WoL パケットを送信することにより、このような複雑さに対処します。

### Wake-from-Standby

Windows™ やその他のオペレーティング・システムでは、アプリケーションは、事前定義された時刻にコンピューターをスタンバイ状態からウェークできます。Wake-from-Standby を使用すると、コンピューターは、Wake-on-LAN を必要とせずに復帰します。

## 主な機能

このセクションでは、Endpoint Manager Power®Management の主な機能の目的と働きについて説明します。

### 休止状態にならない PC の防止

コンピューターは、構成可能なユーザー・アイドル時間が経過した後にスリープ状態になるように設定できます。「休止状態にならない PC」という用語は、アプリケーションによってコンピューターがスリープできない状況を表すために使用されます。休止状態にならない PC の防止は、BigFix エージェントがユーザー・アイドル時間をモニターして、コンピューターを適切な時間に強制的にスリープさせるメカニズムです。

#### Wake-On-LAN フォワーダー (WoLF)

多くのエンタープライズ・ネットワークでは、別のサブネットからブロードキャストできないため、Wake-on-LAN が困難になります。この問題を解決するため、BigFix エージェントを Wake-On-LAN フォワーダー (WoLF) として指定し、同一サブネット内にある近くのコンピューターに Wake-on-LAN パケットを送信できます。この方法により、組織はネットワークを変更することなく Wake-on-LAN を使用できます。

#### ラストマン・スタンディング (LMS)

Wake-on-LAN テクノロジーでは、サブネット内の少なくとも 1 つのコンピューターが、他のコンピューターの Wake-On-LAN フォワーダーとして機能できるようアクティブになっていなければなりません。コンピューターを LMS として指定すると、必ず 1 台のコンピューターは、シャットダウンを受け付けず、電源オフになった場合は自動的に起動することによって、常にアクティブとなります。

#### Power® 管理効率

コンピューターが非アクティブな時間をいかに効率的に使うかの指標。この指標によると、アイドル時間は非効率的、スタンバイは効率的と見なされます。式は、スタンバイ時間 / (スタンバイ時間 + アイドル時間) です。

#### 最低Power®消費

コンピューターがアクティブに使用されている間のみ電源オンにし、その他の時間はすべて電源オフにした場合に使用される電力量。

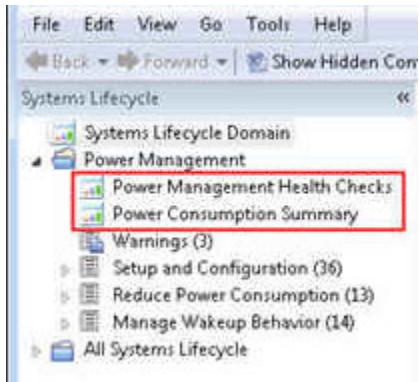
#### 最高Power®消費

電源管理設定を有効にせずに、コンピューターを一日中電源オンにした場合に使用される電力量。

## ダッシュボードの概要

BigFix 電源管理には、適用環境における電源設定の概要を表示するために、以下のダッシュボードが組み込まれています。

- 電源管理適用状態チェック
- 消費電力要約



## 「電源管理適用状態チェック」ダッシュボード

「電源管理適用状態チェック」ダッシュボードは、電源管理適用環境のトラブルシューティングと最適化チェックを行います。このダッシュボードは、「設定」、「履歴電源トラッキング」、「Wake-on-LAN」のセクションで構成されています。

Power Management Health Checks

The Power Management Health Checks Dashboard provides troubleshooting and optimization checks for your Power Management Deployment. You can drill down into individual health checks to see their results and a resolution path for failing checks.

**Setup**

Name	Status	Severity
<input type="checkbox"/> <b>Power Tracking Enabled</b>	Pass	Critical
<input type="checkbox"/> <b>Power Tracking Utility at Latest Version</b>	Pass	Critical
<input type="checkbox"/> <b>Power Tracking Utility Running</b>	Pass	Critical
<input type="checkbox"/> <b>Power Tracking Utility Tracks Accurate Data</b>	Pass	High
<input type="checkbox"/> <b>Power Analyses Activated</b>	Pass	High
<input type="checkbox"/> <b>PC Insomnia</b>	Pass	Medium
<input type="checkbox"/> <b>Clients Set to use Max Power State</b>	Pass	Low

**Historical Power Tracking**

Name	Status	Severity
<input type="checkbox"/> <b>Store Power Data Utility is Running</b>	Warning	Critical
<input type="checkbox"/> <b>Store Power Data Utility at Latest Version</b>	Pass	Critical
<input type="checkbox"/> <b>Historical Tracking Groups</b>	Pass	High

**Wake-on-LAN**

Name	Status	Severity
<input type="checkbox"/> <b>Wake-on-LAN Medic Running</b>	Pass	Critical
<input type="checkbox"/> <b>Wake-on-LAN Medic at Latest Version</b>	Pass	Critical
<input type="checkbox"/> <b>Wake-on-LAN Forwarders Deployed</b>	Pass	High
<input type="checkbox"/> <b>Last Man Standing Deployed</b>	Fail	Medium

個々の状態チェックにドリルダウンして、チェックの結果と、失敗したチェックの解決法を参照できます。各項目を展開すると、詳細な結果および解決法が表示されます。

Power Management Health Checks

The Power Management Health Checks Dashboard provides troubleshooting and optimization checks for your Power Management Deployment. You can drill down into individual health checks to see their results and a resolution path for failing checks.

**Setup**

Name	Status	Severity
<input checked="" type="checkbox"/> <b>Power Tracking Enabled</b>	Fail	Critical

Computers must have power tracking enabled to be included in power calculations. Power tracking can be enabled through the "Enable Power Tracking with Default Assumptions" Fixlet.

**Results:**

Computers without Power Tracking enabled: 0 of 0 (NaN%)

**Resolution:**

Run the action for the "[Enable Power Tracking with Default Assumptions](#)" Fixlet to enable Power Tracking on relevant computers.

**Checklist:**

<input checked="" type="checkbox"/> <b>Power Tracking Utility at Latest Version</b>	Fail	Critical
<input checked="" type="checkbox"/> <b>Power Tracking Utility Running</b>	Pass	Critical
<input checked="" type="checkbox"/> <b>Power Tracking Utility Tracks Accurate Data</b>	Pass	High
<input checked="" type="checkbox"/> <b>Power Analyses Activated</b>	Fail	High
<input checked="" type="checkbox"/> <b>PC Insomnia</b>	Pass	Medium

## 「消費電力要約」ダッシュボード

「消費電力要約」ダッシュボードは、消費電力のさまざまな側面に注目した個別のセクションから成る複合レポートです。

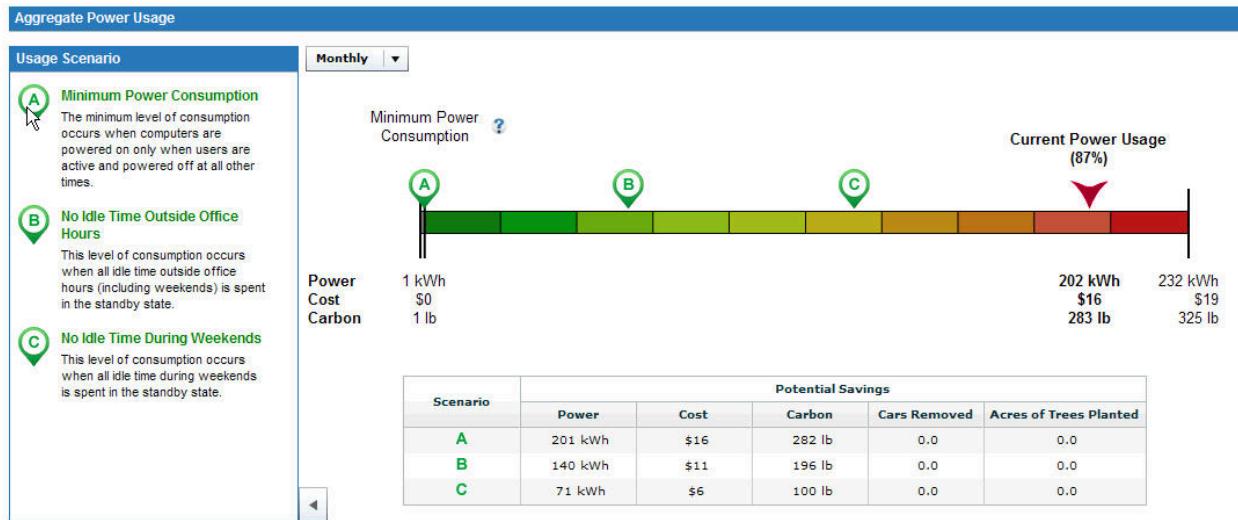
「消費電力要約」ダッシュボードは、次の情報を収集します。

- ・消費電力の集計
- ・アクティビティー状態の1日あたりの平均明細(アイドル、アクティブ、スタンバイ、電源オフ)
- ・電源管理(PM)効率のレーティング
- ・前週のアイドル時間明細
- ・計算から除外された追跡するコンピュータの総数
- ・電源プロファイル設定
- ・平均統計
- ・PM効率のレーティング
- ・電源が入ったコンピュータ

### 消費電力の集計

「消費電力の集計」セクションでは、デプロイメントで使用された全体の電力を表示し、それを最低消費電力の推定量と比較します。このセクションには、デプロイメント内のさまざまなコンピューターのタイプの電力、コスト、および二酸化炭素の観点から、消費電力のさまざまなシナリオが表示されます。

「消費電力の集計」セクションの画像を以下に示します。



電力のスペクトル上の A、B、および C の文字は、「消費電力の集計」セクションの左側に説明されている使用シナリオに対応しています。

### 最低消費電力

コンピューターが、アイドル、スタンバイ、または休止状態の各モードではなく、アクティブに使用されている間にのみ電源をオンにし、その他の時間はすべて電源をオフにした場合に消費される電力量。

### 業務時間外にアイドル時間なし

業務時間外にアイドル時間がない場合に消費される電力量。消費電力は、アイドル状態をスタンバイ状態に変換することによって計算されます。

### 週末にアイドル時間なし

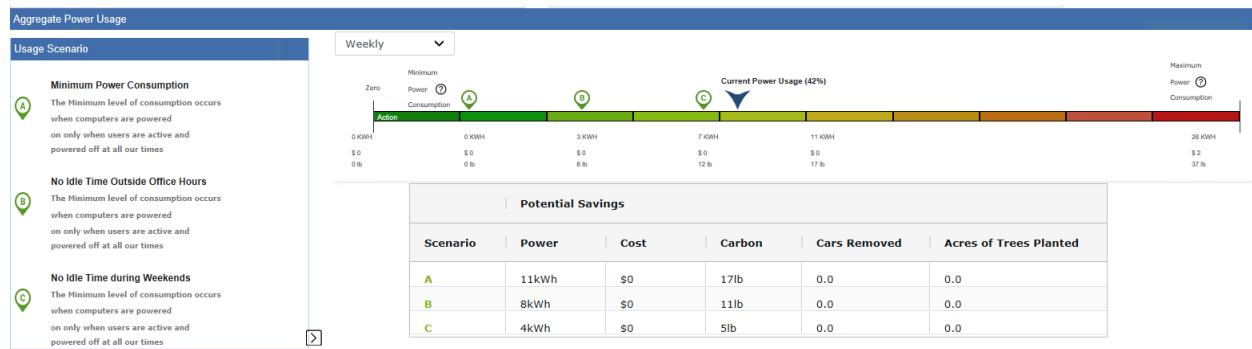
週末にアイドル時間がない場合に発生します。消費電力は、アイドル状態を標準状態に変換することによって計算されます。

電力のスペクトルの下にある表で、潜在的な省電力量を確認することもできます。

### アクティビティ状態の 1 日あたりの平均明細

このセクションには、平均的なコンピューターが平均的な 1 日の中で各種の電源状態になっている時間が表示されます。コンピューターの電源状態には、アイドル、アクティブ、スタンバイ、電源オフがあります。マウス・ポインターを円グラフ・セクションの上に移動すると、それぞれの電源状態の値が表示されます。「1 日あたりの平均明細」の値は、円グラフ、グラフ、表の形式で表示することもできます。

 **注:** 「消費電力要約」ダッシュボードの結果と「消費電力分析」の結果が不正確にならないように、必ず RESTAPI を正しくセットアップしてください。RESTAPI は BigFix server のバージョン 9.0 以降でサポートされます。



## PM 効率のレーティング

効率のレーティングでは、スタンバイ電源状態になっているユーザーのアイドル時間の総数量が測定されます。レーティングが低いほど、省電力できる可能性が高いということになります。評価は次のように計算されます。スタンバイ時間 / (スタンバイ時間 + アイドル時間)。

## 前週の平均アイドル時間明細

選択した期間のコンピューターごとの週次アイドル時間明細が表示されます。

## 計算から除外された追跡するコンピュータの総数

この表には、デプロイメント内のコンピューターのタイプ(ラップトップ、デスクトップ、サーバーなど)の分布、およびエラーやデータ不十分などの理由で電力計算から除外されたコンピューターが収集されます。「システム」列の値をクリックすると、特定のコンピューターのタイプのエンドポイントの詳細が表示されます。

## 電源プロファイル設定

「電源プロファイル設定」には、デプロイメント内の以下の電源管理設定の分布が表示されます。

- システム スタンバイが有効なコンピュータ
- モニター スタンバイが有効なコンピュータ
- ハード ドライブ スピンダウンが有効なコンピュータ

## 平均統計

デプロイメント内の平均的なコンピューターの1日当たりの消費電力量。

Idle Time Breakdown for Last week			
Outside Office Hours			
Office Hours	Weekends	Workdays	Full Week
43.10	63	58.5	164.60
45	63	60	168
<b>95.78%</b>	<b>100.00%</b>	<b>97.50%</b>	<b>97.98%</b>

Total Tracked Computers	
Type	Systems
Laptops	0 (0%)
Desktops	1 (100%)
Servers	0 (0%)
Totals	1 (100%)
Removed due to errors	0
Removed due to insufficient data	0

Power Profile Setting	
<b>Computers with System Standby Enabled:</b>	1 of 1 -100 %
<b>Computers with Monitor Standby Enabled :</b>	1 of 1 -100 %
<b>Computers with Hard Drive Spindown Enabled :</b>	1 of 1 -100 %

Average Statistics	
<b>Average Cost per KWh</b>	\$0.08
<b>Daily Usage Computer</b>	
Power	1.76 kWh
Cost	\$0.14
Carbon	2.46 lb

## 電源が入ったコンピュータ

「電源が入ったコンピュータ」セクションには、さまざまな期間中に電源がオンになっていたコンピューターの数が表示されます。このグラフには以下の設定が表示されます。

### 最小

該当の間隔を通して電源がオンだったコンピューターが表示されます。

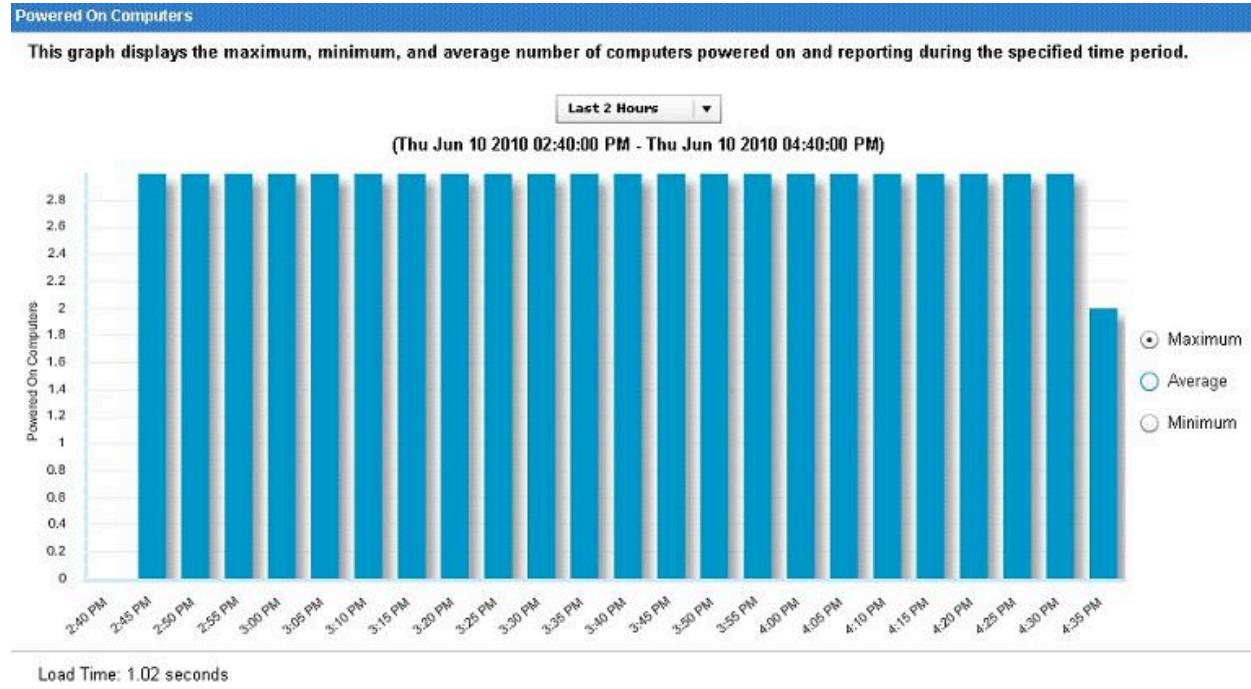
### 最大

該当の間隔中に少なくとも 1 回は電源がオンであると報告されたコンピューターが表示されます。

## 平均

該当の間隔中に電源がオフよりもオンの方が多かったコンピューターが表示されます。

このグラフには、ユーザーがコンピューターの電源を切るタイミングのトレンドが、さまざまな間隔(時間、日、週、または月単位)について表示されます。



注: 「電源が入ったコンピュータ」グラフは、フィルタリングできません。

## 第2章. Power Management の使用

Power Management で提供される一連の Fixlet およびウィザードは、コンピューターの電源状態を制御し、使用されないまま稼働しているコンピューターによって生じる無駄を最小限に抑えるのに役立ちます。稼働しているコンピューターのスリープ状態、休止状態、スタンバイ状態は、ナビゲーション・ツリーの「消費電力低減」ノードで管理できます。

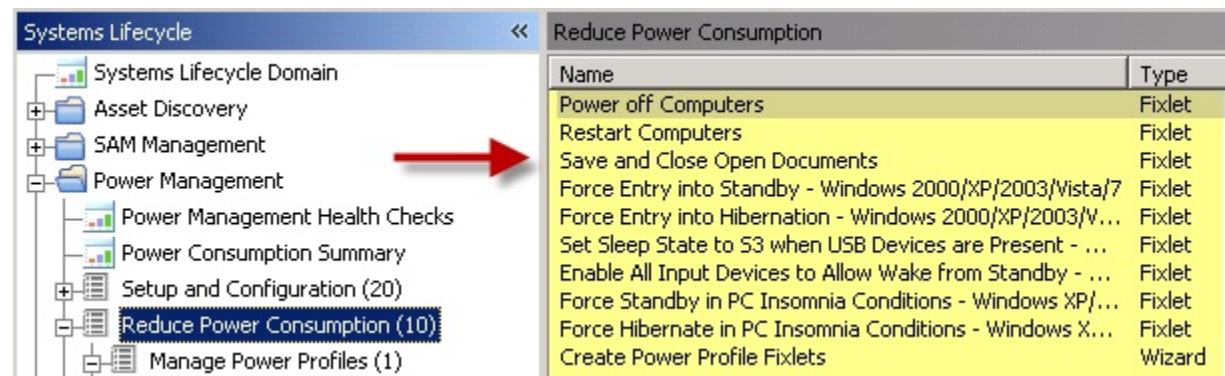
### 省電力ストラテジー

BigFix には、省電力のためのストラテジーがいくつか含まれています。以下のリストは、包括的ではありませんが、いくつかの一般的な省電力ストラテジーを示します。

- ・**モニター・スタンバイの有効化:** モニターは、デスクトップとラップトップの消費電力のかなりの部分に相当します。モニター・スタンバイを有効にしても、ほとんどのモニターは低電力モードから素早く復旧するため、エンド・ユーザーへの影響はわずかしかありません。モニター・スタンバイは、下記のシステム・スタンバイまたは電源オフのストラテジーと簡単に組み合わせることができます。モニター・スタンバイ・ポリシーを変更するには、電源プロファイル・ウィザードを使用します。
- ・**システム・スタンバイの有効化:** コンピューターがスタンバイ・モードで使用する電力は非常に低いため、システム・スタンバイは電源管理の最良の方法と考えられます。ユーザーは、コンピューターを使用する前に、マウスをクリックするかキーボードのキーを押して、コンピューターをウェークする必要がありますが、ほとんどのコンピューターはスタンバイから 10 秒以内に復帰します。
- ・**コンピューターの電源オフ:** 節電のために、事前定義された時刻にコンピューターの電源をオフにすることができます。コンピューターの電源をオフにすると作業が失われる可能性があるため、この方法はエンド・ユーザーに最も影響を及ぼします。

### 消費電力低減

「消費電力低減」セクションには、省電力ストラテジーを実装するためのツールが表示されます。



The screenshot shows the BigFix interface with the 'Systems Lifecycle' navigation tree on the left and a 'Reduce Power Consumption' section on the right.

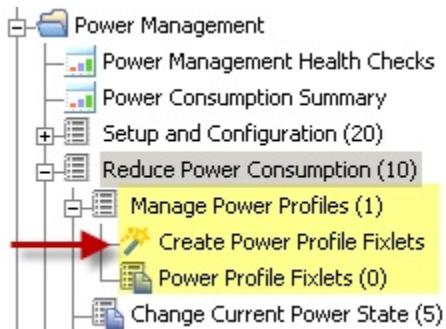
**Systems Lifecycle Tree:**

- Systems Lifecycle Domain
- Asset Discovery
- SAM Management
- Power Management
  - Power Management Health Checks
  - Power Consumption Summary
  - Setup and Configuration (20)
  - Reduce Power Consumption (10) **(highlighted)**
  - Manage Power Profiles (1)

**Reduce Power Consumption Section:**

Name	Type
Power off Computers	Fixlet
Restart Computers	Fixlet
Save and Close Open Documents	Fixlet
Force Entry into Standby - Windows 2000/XP/2003/Vista/7	Fixlet
Force Entry into Hibernation - Windows 2000/XP/2003/V...	Fixlet
Set Sleep State to 53 when USB Devices are Present - ...	Fixlet
Enable All Input Devices to Allow Wake from Standby - ...	Fixlet
Force Standby in PC Insomnia Conditions - Windows XP/...	Fixlet
Force Hibernate in PC Insomnia Conditions - Windows X...	Fixlet
Create Power Profile Fixlets	Wizard

「消費電力低減」ノードの「電源プロファイルを管理」サブノードには、電源プロファイル Fixlet を作成するためのウィザードと、既に作成された Fixlet のリストがあります。



## 電源プロファイルを管理

電源プロファイルを使用すると、ユーザーのアイドル状態が所定の時間続いた場合に、コンピューターを低電力状態にできます。「電源プロファイル Fixlet の作成」 ウィザードを使用して、デプロイメントの電源プロファイルを管理できます。ナビゲーション・ツリーの「電源プロファイルを管理」ノードにある、このウィザードをクリックします。

電源プロファイル Fixlet を作成するためのウィザードでは、電源プロファイルを選択し、電源プロファイル・オプションを設定します。単一の電源プロファイルを作成するか、複数の電源プロファイルを作成するかを選択できます。

### 単一の電源プロファイルの作成

単一の電源プロファイルを作成するには、「単一のプロファイル・ポリシー」タブに移動します。ドロップダウン・リストから電源プロファイルを選択します。「カスタム」を選択して、電源プロファイル名を作成することもできます。「電源プロファイル」オプションを選択します。

1回限りのアクションを作成することも、後で再使用できる Fixlet を作成することもできます。提示された設定がより高レベルな場合にのみアクションを適用するように選択することもできます。

「Fixlet の作成」をクリックします。Fixlet ウィンドウで、「アクション」ボックス内をクリックして、デプロイメントを開始します。完了したら、「OK」をクリックします。

### 複数の電源プロファイルの作成

複数の電源プロファイルのポリシーを作成するには、「複数のプロファイル・ポリシー」タブに移動します。「プロファイルの追加」ボタンをクリックします。「電源設定」ウィンドウが開きます。日時設定を行います。オプションで設定していない残り時間枠に電源プロファイルを設定するには、「すべての日のすべての残りの時間枠」チェック・ボックスをクリックします。時刻と曜日に応じて電源プロファイルを設定するには、これが必須です。

単一の電源プロファイルの作成と同様に、電源プロファイルおよび電源プロファイルのアクションを選択します。「リストへ追加」をクリックします。これで、プロファイルがリストに追加されます。1回限りのアクションを作成するオプションがあります。再使用できる Fixlet を作成するには、オプションのボックスをオフのままにします。これで、電源プロファイルがリストに残ります。

「Fixlet の作成」をクリックします。Fixlet ウィンドウで、「アクション」ボックス内をクリックして、デプロイメントを開始します。完了したら、「OK」をクリックします。



**注:** 複数の電源プロファイルを引き続き適用するには、アクションをポリシーとして取り込む必要があります。「アクションの実行」ダイアログで、「存在する」ドロップダウン・メニューから「ポリシー」を選択して、ポリシー・アクションを有効化します。

## 現在の電源状態を変更

コンピューターを強制的にスタンバイや休止状態などの低電力モードにすることができます。これを行うタスクを使用すると、その特定コンピューターでの電源プロファイルやユーザー・アクティビティーに関係なく、即座にシステムを強制的に低電力モードにしたり、低電力モードをスケジュールしたりできます。



**注:** このタスクには「強制的にスタンバイにする」バージョンもあります。

Task: Force Entry into Hibernation - Windows

Take Action | Edit | Copy | Export | Hide Locally | Hide Globally | Remove

Description | Details | Applicable Computers (1) | Action History (0)

**Description**

When this Task is run, the targeted machine will instantly enter Hibernation.

Use the "Execution" tab of the "Take-Action" dialog to schedule Hibernation at a specific time.

**Note:** The status will be "Pending Download" when machine goes into hibernation. It will report "Completed" as soon as the machine is back on.

**Note:** This Task is not applicable on computers designated as Last Man Standing.

**Actions**

Click [here](#) to force Hibernation.

## 休止状態にならない PC を管理

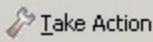
Windows コンピューターによっては、該当するユーザー・アイドル時間が経過しても休止状態またはスタンバイ・モードにならないものがあり、これは、休止状態にならない PC が原因となっています。「休止状態にならない PC を管理」Fixlet は、電源プロファイルに指定されたユーザー・アイドル時間が経過すると、コンピューターを強制的にスタンバイまたは休止状態にします。コンピューターを強制的にスタンバイにすると、復帰にかかる時間は短くなります。コンピューターを強制的に休止状態にすると、ウェークアップ時間は長くなりますが、省電力量はわずかに多くなります。



**注:** 「休止状態にならない PC を強制的に休止状態にする」タスクは、15 分間隔に1回より多くは実行されません。

 **注:** 「休止状態にならない PC を強制的に休止状態にする」タスクは、「ラストマン・スタンディング」として指定されているコンピューターには適用できません。

Task: Force Hibernate in PC Insomnia Conditions - Windows XP/Vista/7

Description Details Applicable Computers (0) Action History (0)

**Description**

This Task will force computers into Hibernate using the BigFix Agent when the user has been idle long enough (the BigFix Agent will use the settings specified in the Windows system Hibernate options).

This will solve the PC Insomnia problem where some computers will not properly enter Hibernate in the timespan specified in its power settings.

The computer will only be put into Hibernate if the following conditions are met:

- The system is Windows XP, Vista, or 7
- Only one user is logged into the computer and no remote users are logged on
- [object RelevanceResult]Power Tracking Utility must be enabled
- The user has been idle for the time specified in the Windows "System Hibernates" Power setting (see [Power Consumption Analysis](#) )

**Note:** This Task will not be run more than once in a 15-minute interval.

**Note:** This Task is not applicable on computers designated as Last Man Standing.

**Actions**

Click [here](#) to enforce hibernation.

## スタンバイ時の動作を管理

ユーザー対話によってコンピューターをスタンバイ状態からウェークできるのは、一部の入力デバイスのみであり、なおかつ、正しい Windows 設定が有効になっている場合に限られます。このタスクは、ウェーク可能なすべての入力デバイスを検索し、それらが Wake-from-Standby を実行できるようにします。

Task: Enable All Input Devices to Allow Wake from Standby - Windows

 Take Action |  Edit |  Copy |  Export | Hide Locally | Hide Globally |  Remove

Description Details Applicable Computers (1) Action History (0)

**Description**

This Task will enable all input devices (Keyboard, Mouse, etc.) on the system to allow Wake-from-Standby. These settings can be viewed under the "Power Management" tab of the devices properties description in device manager. **Note:** If the computer does not have input devices that support Wake from Standby, the action will return "failed". **Note:** This Task is not applicable on computers designated as Last Man Standing.

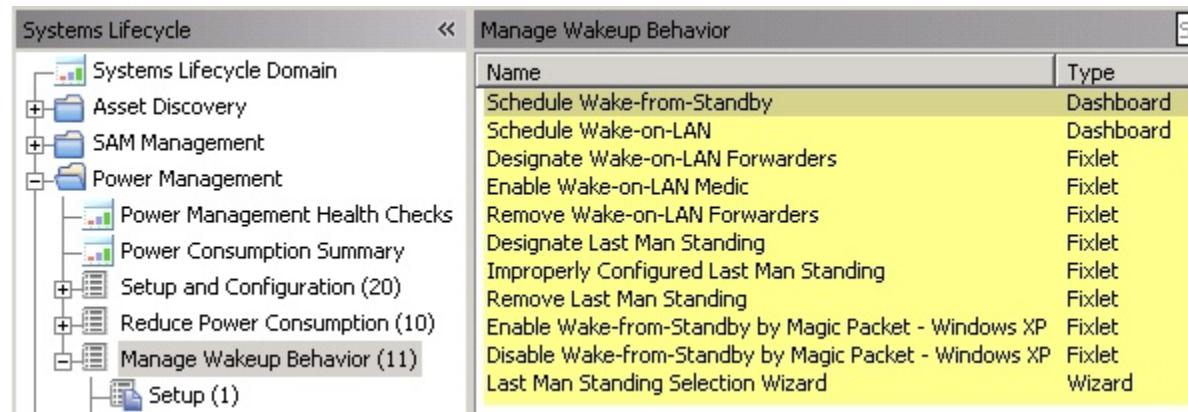
**Actions**

 Click [here](#) to change input device settings.

## 第3章. ウエークアップ時の動作を管理

Power Management には、特定の時刻にコンピューターをオンラインにし、アクションを実行して、そのコンピューターを管理するための Fixlet およびウィザードが用意されています。

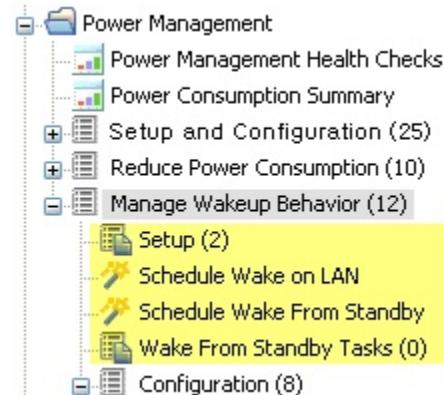
「ウェークアップ時の動作を管理」ノードで、ダッシュボード、Fixlet、ウィザードを使用して、コンピューターのウェークアップ設定を制御できます。



The screenshot shows the 'Systems Lifecycle' interface. On the left, the 'Systems Lifecycle Domain' tree includes 'Asset Discovery', 'SAM Management', 'Power Management' (which is expanded to show 'Power Management Health Checks', 'Power Consumption Summary', 'Setup and Configuration (20)', 'Reduce Power Consumption (10)', and 'Manage Wakeup Behavior (11)'), and 'Setup (1)'. On the right, the 'Manage Wakeup Behavior' node is selected, showing a table of actions:

Name	Type
Schedule Wake-from-Standby	Dashboard
Schedule Wake-on-LAN	Dashboard
Designate Wake-on-LAN Forwarders	Fixlet
Enable Wake-on-LAN Medic	Fixlet
Remove Wake-on-LAN Forwarders	Fixlet
Designate Last Man Standing	Fixlet
Improperly Configured Last Man Standing	Fixlet
Remove Last Man Standing	Fixlet
Enable Wake-from-Standby by Magic Packet - Windows XP	Fixlet
Disable Wake-from-Standby by Magic Packet - Windows XP	Fixlet
Last Man Standing Selection Wizard	Wizard

「ウェークアップ時の動作を管理」ノードには、「設定」と「Wake-from-Standby」タスクのほかに、Wake-On-LAN と Wake-from-Standby をスケジュールするためのウィザードがあります。



The screenshot shows the 'Power Management' node expanded. It includes 'Power Management Health Checks', 'Power Consumption Summary', 'Setup and Configuration (25)', 'Reduce Power Consumption (10)', and 'Manage Wakeup Behavior (12)'. The 'Manage Wakeup Behavior (12)' node is selected and expanded, showing 'Setup (2)', 'Schedule Wake on LAN', 'Schedule Wake From Standby', 'Wake From Standby Tasks (0)', and 'Configuration (8)'.

### セットアップ

Wake-on-LAN Medic ユーティリティは、BigFix server 上で実行されるプロセスです。このユーティリティは、Wake-on-LAN スケジューリングを管理し、ラストマン・スタンディング・コンピューターを起動したまま保ちます。

Wake-on-LAN 機能が正しく動作するようにするため、Wake-on-LAN Medic を有効にする必要があります。

「設定」タスクを使用して、Wake-on-LAN Medic ユーティリティの最新バージョンをインストールします。ナビゲーション・ツリーでこのタスクをクリックします。タスク・ウィンドウが開いたら、説明を確認し、「アクション」ボックス内のリンクをクリックして、ユーティリティを開始します。



**注:** エラーを回避し、Wake-on-Lan Medic ユーティリティーが正しく機能するように、必ず RESTAPI を正しくセットアップしてください。

- Wake-on-LAN Medic ユーティリティーが有効でない場合は、「Wake-on-LAN の有効化」タスクは適用されない場合があります。
- Wake-on-LAN Medic ユーティリティーが有効な場合、スケジュールされた Wake-on-LAN 機能は動作しません。

RESTAPI は BigFix server のバージョン 9.0 以降でサポートされます。

Task: Enable Wake-on-LAN Medic

**Actions**

Take Action | Edit | Copy | Export | Hide Locally | Hide Globally | Remove

Description | Details | Applicable Computers (0) | Action History (0)

**Description**

This Task will install the latest version of the Wake-on-LAN Medic Utility.

This utility is used to wake up computers based on the schedule defined in the Schedule Wake on LAN wizard. Additionally, it will send a wake up request to any Last Men Standing that may have been shutdown.

**Note:** The BES Server Plugin Service must be installed on the BES server in order to deploy this utility.

**File Size:** 3.18 MB

**Actions**

Click [here](#) to enable the Wake-on-LAN Medic utility.

## Wake-On-LAN スケジュール

「Wake-On-LAN をスケジュール」 ウィザードを使用して、スケジュールされたウェークアップを作成し、保守できます。スケジュールされたウェイクアップは、クライアントのローカル時間で実行され、実行にはアクションも特別なルーター構成も使用する必要はありません。

Schedule Wake-on-LAN

Use this wizard to create and maintain scheduled wake-ups using BigFix Wake-on-LAN technology. Scheduled wake-ups run on client local time, and do not require the use of BigFix Actions or special router configuration to run.

**Scheduled Wake-ups**

Policy Name	Schedule	Targeting Rule
VPRO wake	At 01:29:00 PM on Wed, Jun 9 2010	All computers whose property "Computer Name" contains "par"
patch Tuesday	At 04:53:25 PM on the second Tue of every month, starting on Thu, Jun 10 2010	All computers whose property "OS" contains "XP"

**Create New WoL Policy**

Policy Name:

Start Time:   Client Local Time

Schedule Task:

Starting on:

Every   Day(s)

**Create New WoL Policy**

**Create Targeting Rule:**

All computers with the values selected below

All computers within the selected computer group

The computers specified in the list of names below (separated by spaces or newlines)

---

Include computers with the following property:

**vPro Settings:**

Use Intel vPro technology along with BigFix WoL to wake these computers.

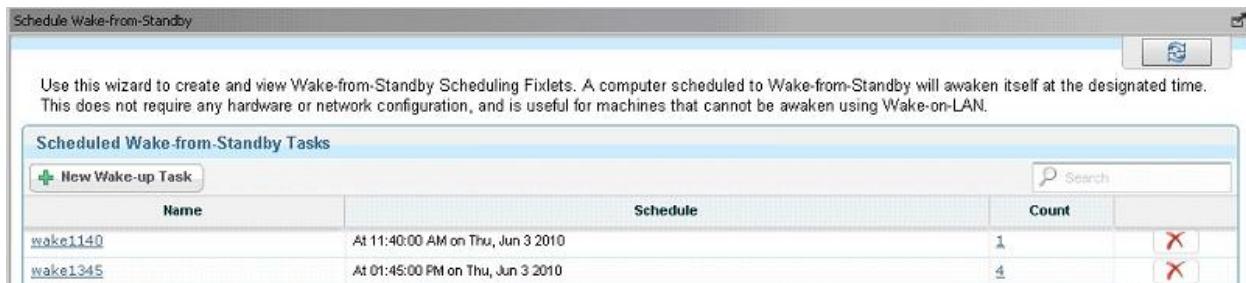
 **注:** 「vPro 設定」オプションは、「Client Manager for Intel vPro」サイトをサブスクライブする場合にのみ有効になります。

WoL ポリシーをスケジュールすると、WoL Medic コンポーネントはシステムをウェークするように設定されます。デフォルトでは、WoL Medic は、スケジュールされた WoL ポリシーの実行時間になったかどうかを 5 分ごとに検査します。

 **注:** エラーを回避し、Wake-on-Lan Medic ユーティリティーが正しく機能するように、必ず RESTAPI を正しくセットアップしてください。RESTAPI は BigFix server のバージョン 9.0 以降でサポートされます。

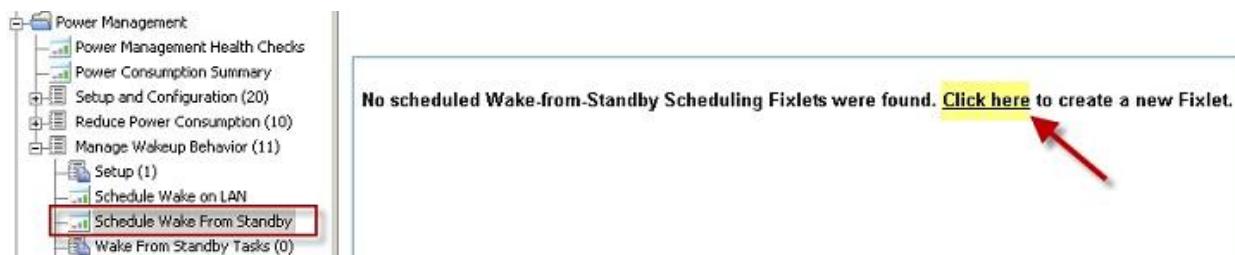
## Wake-from-Standby スケジュール

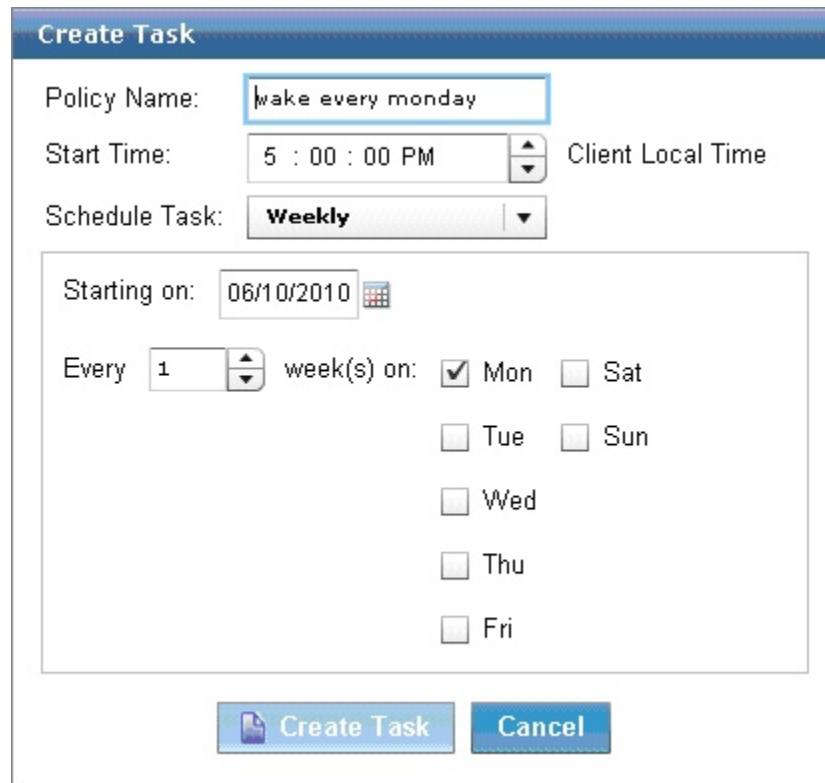
「Wake-from-Standby スケジュール」 ウィザードを使用して、Wake-from-Standby スケジュール Fixlet を作成し、表示することができます。Wake-from-Standby にスケジュールされたコンピューターは、指定された時刻に復帰します。これにはハードウェア構成もネットワーク構成も必要ないので、WoL を使用して起動できないコンピューターに便利です。



## Wake-from-Standby タスク

Wake-from-Standby タスクをスケジュールするには、ナビゲーション・ツリーで「Wake-from-Standby スケジュール」 ウィザードをクリックします。ここでは、ナビゲーション・ツリーの「Wake-from-Standby タスク」パートに組み込まれる新規 Wake-from-Standby タスクを作成できます。

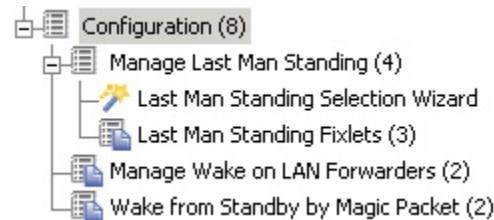




注: このアクションは、スケジュールされたウェークアップ時間になる前に実行してください。スケジュールされたウェークアップ・アクションを実行するには、Windows タスク・スケジューラー・サービスがアクティブになっている必要があります。

## 構成

「電源管理」ナビゲーション・ツリーの「設定」ノードから、ラストマン・スタンディング Fixlet、Wake-On-LAN フォワーダー、およびマジック・パケットによる Wake-from-Standby の各オプションを管理できます。以下のセクションでは、これらの機能に重点を置いて説明します。

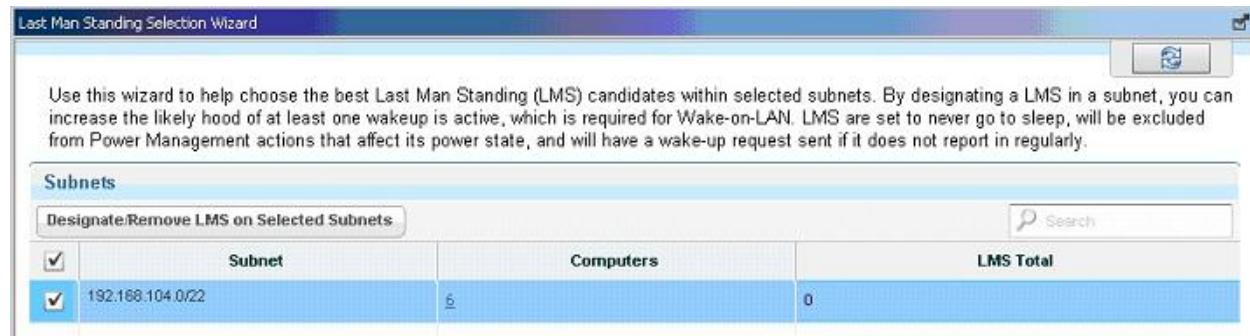


## ラストマン・スタンディングを管理

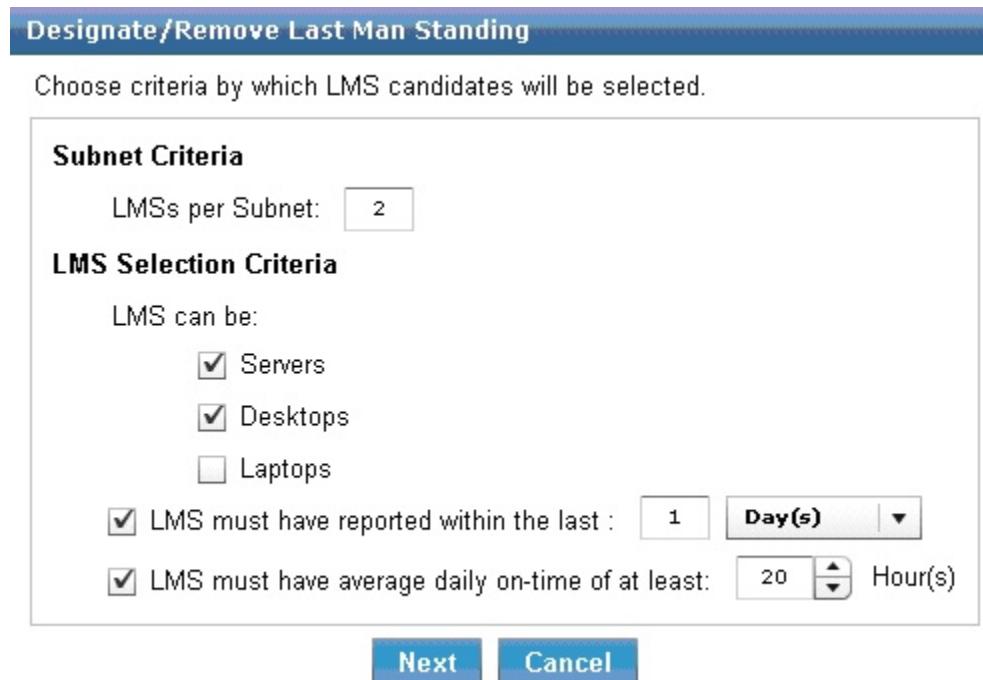
ラストマン・スタンディング (LMS) により、Wake-on-LAN 機能を使用してサブネット内のコンピューターを起動できるようになります。ただし、LMS コンピューターはずっと稼働していなければならないため、この指定の対象として選択するのは、サブネット内の 1 台か 2 台のコンピューターのみにしてください。LMS として指定するコン

ピューターを選択するときは、サーバーなど、ずっと稼働している可能性の高いタイプのコンピューターを選択します。

LMS 選択ウィザードでは、サブネットあたりの LMS コンピューターの選択が自動化されており、LMS コンピューターについてのユーザー独自のカスタム・セットを定義できます。



LMS ウィザードは、入力された基準と一致するコンピューターを検索し、それを LMS の潜在的な候補として送信します。



このセクションのアクションを実行する前に、提案されたすべての LMS 候補を確認し、そのリストから選択することができます。

**Designate/Remove Last Man Standing**

BigFix has selected the best LMS candidates based on the selection criteria, and will remove LMS's that do not meet this criteria. Select individual subnets to customize LMS selection and removal.

Subnet	Current		LMS Action			Meets Criteria
	Computers	LMS Total	LMSs Added	LMSs Removed	Final LMS Total	
192.168.104.0/22	6	0	2	0	2	

**Computers in Selected Subnet**

Computer	Daily On-Time	Type	Last Reported	Meets Criteria	LMS Quality	LMS Action
1122-WIN7X86	24:00:00	Workstation	9 minutes ago		Excellent	Designate LMS*
1119-WIN7X64	23:00:00	Workstation	20 hours ago		Average	Designate LMS*
PARAKEET	22:00:00	Workstation	3 minutes ago		Average	Nothing
PARROT	22:00:00	Laptop	9 minutes ago		Poor	Nothing
mac bios	9:00:00	Workstation	3 days ago		Poor	Nothing
WIN7LAPTOP	N/A	Laptop	6 days ago		Poor	Nothing

\* denotes that the action will be run on the endpoint.

**Buttons:** Back, Deploy LMS Action, Cancel

## Wake-On-LAN フォワーダーを管理

Wake-On-LAN フォワーダー (WoLF) は、同一サブネット内にある他のコンピューターに Wake-on-LAN パケットを転送する BigFix エージェント・コンピューターです。サブネット内の他のコンピューターをウェークするため、サブネット内には電源がオノンになっている WoLF が少なくとも 1 つ存在しなければなりません。

電源トラッキングが有効になっている場合は、すべての BigFix エージェントが WoLF として設定されます。BigFix には、ネットワーク・トラフィックを最小限に抑えるためのヒューリスティックが組み込まれているので、すべてのエージェントを Wake-On-LAN フォワーダーにすることができます。すべてのクライアントを WoLF として指定すると、各サブネット内の少なくとも 1 つのフォワーダーが電源オノンの状態で、対象コンピューターのウェークに使用できる可能性が高くなるため、ウェークに冗長性を持たせることができます。

Power Management には、WoL フォワーダーの指定および削除のタスクが含まれています。これらのタスクにアクセスするには、ナビゲーション・ツリーで「Wake-On-LAN フォワーダーを管理」をクリックし、リスト・パネル内の該当するタスクを選択します。

**Manage Wake on LAN Forwarders**

Name	Source Severity	Site
Designate Wake-on-LAN Forwarders	<Unspecified>	Power Management QA
Remove Wake-on-LAN Forwarders	<Unspecified>	Power Management QA

「Wake-On-LAN フォワーダーの指定」タスクでは、選択したクライアントがそれぞれのサブネット内にあるコンピューターに Wake-on-LAN パケットを転送するように構成します。Wake-On-LAN フォワーダーを指定するには、「アクション」ボックス内のリンクをクリックします。

Task: Designate Wake-on-LAN Forwarders

Take Action | Edit | Copy | Export | Hide Locally | Hide Globally | Remove

Description | Details | Applicable Computers (1) | Action History (0)

**Description**

This Task will configure selected clients to forward the "Wake-on-LAN" packet to computers within their respective subnets.

If a subnet does not have an active Wake-on-LAN packet forwarder, BigFix will not be able to awaken machines in that subnet using On-Demand Wake-on-LAN.

**Actions**

Click [here](#) to designate Wake-on-LAN packet forwarders.

Wake-On-LAN パケット・フォワーダーを削除するには、リスト・パネルの「Wake-On-LAN フォワーダーの削除」タスクをクリックし、「アクション」ボックス内のリンクをクリックして、アクションを開始します。

Task: Remove Wake-on-LAN Forwarders

Take Action | Edit | Copy | Export | Hide Locally | Hide Globally | Remove

Description | Details | Applicable Computers (0) | Action History (0)

**Description**

This Task will remove the ability for the selected clients to serve as Wake-on-LAN forwarders within their respective subnets.

**Note:** This Task is not applicable on computers designated as Last Man Standing.

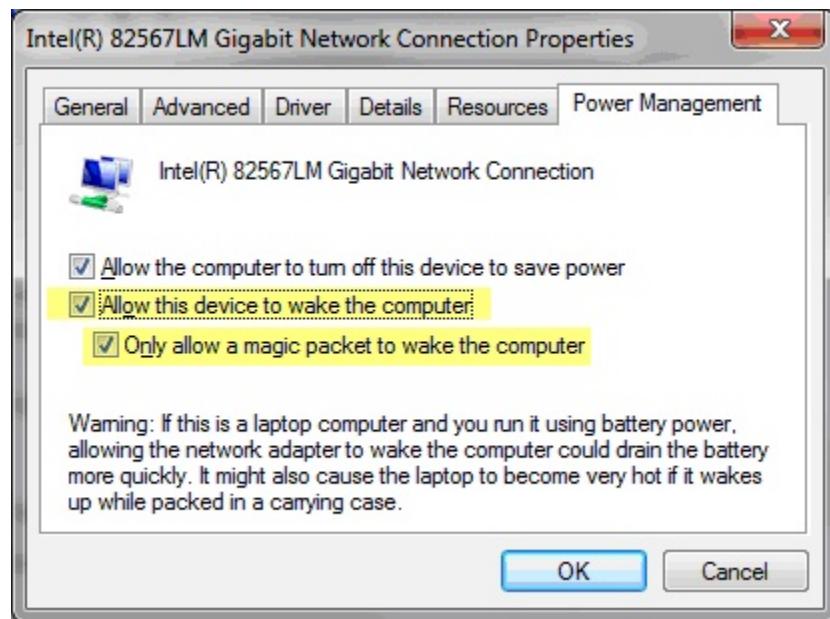
**Actions**

Click [here](#) to remove Wake-on-LAN packet forwarders.

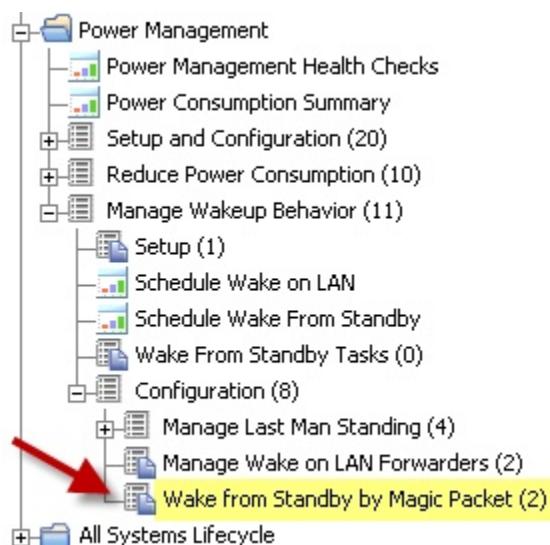
## マジック パケットによる Wake-from-Standby

電源管理には、「マジック・パケットによる Wake-from-Standby」を無効にするタスクと有効にするタスクの2つが含まれています。マジック・パケット (Wake-on-LAN パケットとも呼ばれる) は、コンピューターをウェークするプロードキャスト・パケットです。

これらのタスクにより、Windows のネットワーク・アダプター設定は「このデバイスで、コンピューターのスタンバイ状態を解除できるようにする」から「マジック・パケットでのみ、コンピューターのスタンバイ状態を解除できるようにする」に変更されます。これらの設定は、Windows のネットワーク・アダプター・プロパティーにあります。



これらのタスクにアクセスするには、ナビゲーション・ツリーで「マジック・パケットによる Wake-from-Standby」をクリックし、リスト・パネル内の該当するタスクを選択します。



Name	Source	Severity	Site
Disable Wake-from-Standby by Magic Packet - Wind...	<Unspecified>		Power Management QA
Enable Wake-from-Standby by Magic Packet - Wind...	<Unspecified>		Power Management QA

「マジック・パケットによる Wake-from-Standby」を無効または有効にするには、該当するタスクをクリックし、タスク・ウィンドウの「アクション」ボックス内で該当するリンクをクリックして、アクションを開始します。

## Wake-on-LAN Medic とともに Intel vPro を使用したエンドポイントのウェイクアップ

Intel vPro とともに BigFix Wake-on-LAN Medic ユーティリティーを使用して、ウェイクアップするエンドポイントをセットアップおよびスケジュールするには、以下のステップに従います。

BigFix Wake-on-LAN (WoL) Medic ユーティリティーとともに vPro を使用するには、以下の要件を満たしていることを確認します。

- 以下のいずれかのサイトの最新バージョンをサブスクライブします。
  - BES のサポート・サイト
  - Power Management サイト
- BigFix サーバーには .NET Framework 2.0 が必要です。
- Wake-on-LAN Medic ユーティリティーを有効にします。詳しくは、『ウェークアップ機能の有効化』を参照してください。
- ターゲット・コンピューターには Intel AMT 3.0 以降のバージョンが必要です。
- Intel セットアップ・コンフィギュレーション・サービス (SCS) が使用される (オプション) 場合は、SCS サーバーのバージョン 7.0 以降を使用します。
-  **注:** エラーを回避し、Wake-on-Lan Medic ユーティリティーが正しく機能するように、必ず RESTAPI を正しくセットアップしてください。RESTAPI は BigFix server のバージョン 9.0 以降でサポートされます。

エンドポイントをウェイクアップするために Intel vPro を BigFix WoL Medic ユーティリティーとともに使用できます。BigFix Power Management では、ポリシーを使用して Wake-on-LAN を実行します。ポリシーを設定することで、特定の時刻に特定のエンドポイントをウェイクアップでき、vPro を使用できます。

ポリシーを実行すると、BESWolMedic.exe ユーティリティーが起動され、該当するエンドポイントの照会と WOL パケットの送信が行われます。

vPro オプションが有効な場合、認証が正常に行われた後、amtpowercmd.exe と呼ばれるユーティリティーが vPro を使用して HTTP で WoL シグナルを送信し、該当するエンドポイントをウェイクアップします。

 **注:** BESWolMedic.exe と amtpowercmd.exe は BES サーバーで起動されます。

以下のステップは、Intel SCS を使用するインフラストラクチャーと使用しないインフラストラクチャーに適用されます。vPro インフラストラクチャーがセットアップ済みであることが前提です。

1. レジストリー値をセットアップします。
  - SCS を使用する場合

**x64 の場合**

- "HKEY\_LOCAL\_MACHINE\SOFTWARE\WOW6432\BigFix Enterprise\Server\MSConfig\Power\WoL\SCS\Server"



注: この値は、サーバーのホスト名または IP アドレスです。

- "HKEY\_LOCAL\_MACHINE\SOFTWARE\WOW6432\BigFix Enterprise\Server\MSConfig\Power\WoL\SCS\Username"
- "HKEY\_LOCAL\_MACHINE\SOFTWARE\WOW6432\BigFix Enterprise\Server\MSConfig\Power\WoL\SCS\Password"

#### x86 の場合

- "HKEY\_LOCAL\_MACHINE\SOFTWARE\BigFix Enterprise\Server\MSConfig\Power\WoL\SCS\Server"



注: この値は、サーバーのホスト名または IP アドレスです。

- "HKEY\_LOCAL\_MACHINE\SOFTWARE\BigFix Enterprise\Server\MSConfig\Power\WoL\SCS\Username"
- "HKEY\_LOCAL\_MACHINE\SOFTWARE\BigFix Enterprise\Server\MSConfig\Power\WoL\SCS\Password"

◦ SCS を使用しない場合

#### x64 の場合

- "HKEY\_LOCAL\_MACHINE\SOFTWARE\WOW6432\BigFix Enterprise\Server\MSConfig\Power\WoL\Pro\Username"
- "HKEY\_LOCAL\_MACHINE\SOFTWARE\WOW6432\BigFix Enterprise\Server\MSConfig\Power\WoL\Pro>Password"

#### x86 の場合

- "HKEY\_LOCAL\_MACHINE\SOFTWARE\BigFix Enterprise\Server\MSConfig\Power\WoL\Pro\Username"
- "HKEY\_LOCAL\_MACHINE\SOFTWARE\BigFix Enterprise\Server\MSConfig\Power\WoL\Pro>Password"



注: SCS を使用しない場合は、各エンドポイントの資格情報が同じであることを確認して、ウェイクアップが失敗しないようにしてください。

2. BigFix コンソールから、Wake-on-LAN ポリシーで vPro オプションを選択します。
  - 「BES サポート」 > 「ウィザード」 > 「Wake-On-LAN をスケジュール」 ウィザードに移動します。
  - 新規ポリシーを作成するか既存のポリシーを選択します。
  - 「Intel vPro テクノロジーと BigFix WoL を使用して、次に示すコンピュータをウェークアップします」を選択します。

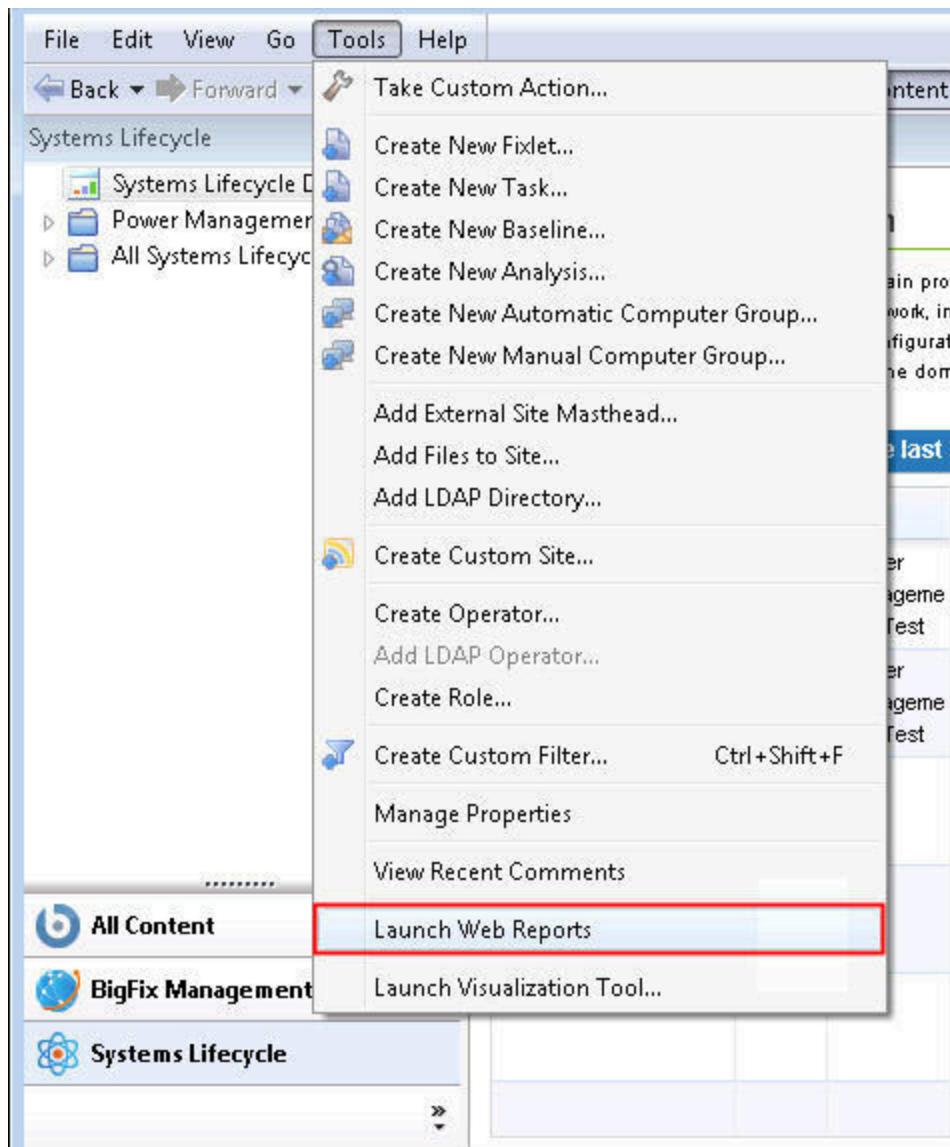
- d. 新規ポリシーの場合は「**ポリシーの作成**」をクリックし、既存のポリシーの場合は変更を保存します。

「Wake-on-LAN スケジュール」 ウィザードを使用して、スケジュールされたウェイクアップを作成および維持する方法について詳しくは、[Wake-on-LAN Medic とともに Intel vPro を使用したエンドポイントのウェイクアップ](#)を参照してください。

## 第4章. Web レポート

Power Management Web レポートには、あるデプロイメントでの消費電力を経営陣および意思決定者が表示および評価するための概要データが表示されます。

Web レポートにアクセスするには、「ツール」 > 「Web レポートの起動」をクリックします。



Web レポートのユーザー名とパスワードを入力します。「ログイン」をクリックします。

Web レポートのメインページが新規ブラウザーで開きます。電源管理レポートのリストを表示するには、「システム・ライフサイクル」を選択します。

Explore Data Report List Administration Version: 8.2.1079.0

Choose a category to view reports:

**Starred**  
My favorite reports

**My Authored**  
Reports that I've created

**Systems Lifecycle**

以下のように、「レポート一覧」メニューの下に電源管理レポートのリストが表示されます。

Explore Data Report List Administration

Import report

Only show starred

Label  Delete  Search Reports

Select: All, None

**Filter by Label**  clear

Find labels

Systems Lifecycle

**Selected labels:** Systems Lifecycle

Name
<input type="checkbox"/> Model Power Savings
<input type="checkbox"/> Power Consumption Over Time
<input type="checkbox"/> Power Management Daily Activity State Breakdown
<input type="checkbox"/> Power Management Settings
<input type="checkbox"/> Wake on Web
<input type="checkbox"/> Weekly Idle Time Breakdown Report
<input type="checkbox"/> Weekly Power Consumption Over Time

## モデルの省電力

このレポートでは、適用環境にさまざまな電源プロファイルを適用した場合に損失または節約となる可能性のある電力量が、現在の消費電力パターンに基づいて計算されます。

このレポートを使用すると、各種電源ポリシーの実装による潜在的な省電力量についての仮定のシナリオを作成できます。デフォルトでは、このレポートの結果は、過去 2 週間のエージェントごとの実際の電源状態履歴に基づいています。これらの結果は、省電力量の正確な予測であると考えられます。

This report shows estimated Yearly power consumption savings of your deployment if every endpoint had the following power profile values set:

[Export To PDF](#)

Estimated savings for **Yearly** ▾

Power Profile	Potential Standby Settings		Potential Total Savings			Potential Average Savings Per Computer		
	System	Monitor	Power	Cost	Carbon	Power	Cost	Carbon
Minimal	Never	60 Min	-787 kWh	-\$63	-1,101 lb	-112 kWh	-\$9	-157 lb
Moderate	60 Min	30 Min	+1,420 kWh	+\$114	+1,988 lb	+203 kWh	+\$16	+284 lb
Aggressive	30 Min	10 Min	+1,507 kWh	+\$121	+2,110 lb	+215 kWh	+\$17	+301 lb

## 時間の経過に伴う消費電力

「時間の経過に伴う消費電力」レポートは、一定期間のコンピューターの平均消費電力をグラフにして、開始日に基づくベースライン・コストと比較したコストまたは省電力量を表示します。

このレポートは、電源管理ポリシーの省電力量の履歴および進行状況を確認するために使用します。このレポートを使用するには、「履歴電源トラッキング」を有効にしておく必要があります。



注: 「終了日」として現在日付を選択した場合は、前の日付が事前に計算されるため、レポートの生成にかかる時間が大幅に長くなる可能性があります。

**Description:**

The following report shows the average power consumption data (in cost, power, or carbon) per computer over a selected period of time. It also shows the average savings realized compared to the average cost on the start date.

**Select the reporting groups on which to report:**

Report Grouping Policy:  | ▾

Report Groups:

Find Group names containing:

- Win2008R2 6.1.7600
- Win2008R2 6.1.7601
- Win7 6.1.7600
- WinXP 5.1.2600

[Select All](#) [Deselect All](#)

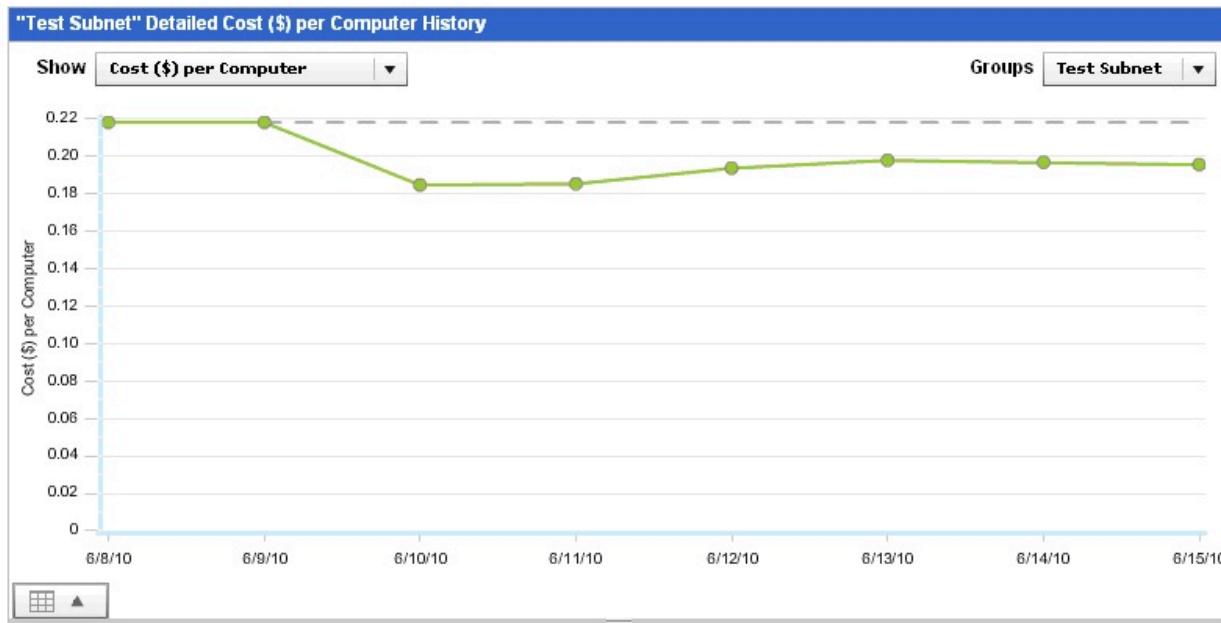
Show results for:  Laptops  Desktops  Servers

Consumption Period:  | ▾

**Generate Report**

[Store](#)
[Export to PDF](#)
**Report Options:**

Average Power Consumption data per computer over a period from 06/08/2010 to 06/15/2010, with savings compared to start date average on 06/08/2010 for Laptops, Desktops in the "Location By Subnet" grouping policy.



**Average per Computer Consumption Over Period by Group**

Groups	Total Consumption over Period			Savings Compared to Start Date		
	Cost	Power	Carbon	Cost	Power	Carbon
Test Subnet	\$1.59	19.9 kWh	28 kg	\$0.15	1.9 kWh	3 kg

## 週次の時間の経過に伴う消費電力

「週次の時間の経過に伴う消費電力」レポートには、1週間のコンピューターごとの平均の週次電力消費量データ(コスト、電力、または二酸化炭素の単位)がグラフで表示されます。

開始週の平均コストと比較して実現された平均省電力量も表示されます。レポートの「コンピューター履歴ごとの詳細コスト(ドル単位)」セクションにあるグラフの各データ・ポイントには、電力、コスト、二酸化炭素の観点から、特定の週の消費電力の明細が表示されます。

「一定期間にわたるグループ別のコンピュータあたりの平均消費電力」の表には、グラフの明細が表示されます。この表には、時間の経過に伴う総消費量と、開始週と比較した省電力量が表示されます。



**注:** このレポートを使用するには、「履歴電源トラッキング」を有効にしておく必要があります。

## 電源管理に関する日単位のアクティビティー状態の明細

「電源管理に関する日単位のアクティビティー状態の明細」レポートには、平均的な1日のアクティビティー状態の明細が表示されます。

アクティビティー状態は、「アクティブ」、「アイドル」、「スタンバイ」、および「電源オフ」です。このレポートを使用すると、電源ポリシーに対して行う変更を評価できます。例えば、多くのコンピューターでアイドル時間が長い場合は、「スタンバイ」電源ポリシーを設定すると、電力は大幅に節約されます。2つの異なる日付で改善状況を比較するように設定することもできます。この比較機能では、履歴電源トラッキングが有効になっている必要があります。

### Description:

The following report displays a breakdown of the average day by activity state. The four activity states include Active, Idle, Standby, and Powered Off.

### Select the reporting groups on which to report:

Report Grouping Policy: **Location By Subnet**

Report Groups:

Find Group names containing:

Test Subnet



[Select All](#) [Deselect All](#)

Show results for:  Laptops  Desktops  Servers

Show data for date:   Compare against date:

**Generate Report**

### Report Options:

[Store](#)

[Export To PDF](#)

Power Management Daily Average State Breakdown data on 06/15/2010 for Laptops, Desktops in the "Location By Subnet" grouping policy.

Group	Total Computers	Active	Idle	Standby	Powered Off	PM Efficiency
Test Subnet						
06/15/2010	2	1.74	21.10	0.55	0.60	2%



注: 「日付に対して比較」で現在日付を選択した場合は、前の日付が事前に計算されるため、レポートの生成にかかる時間が大幅に長くなる可能性があります。

## 週次の時間の経過に伴うアイドル時間明細

「週次の時間の経過に伴うアイドル時間明細」レポートには、選択した期間のコンピューターごとの週次アイドル時間明細が表示されます。開始週と比較して実現されたアイドル時間の削減(時間単位)も表示されます。

このレポートには、選択した 2 つの週の間のすべての週のデータが表示されます。この比較機能では、履歴電源トラッキングが有効になっている必要があります。選択したレポート・グループに格納されている履歴データがないときは、新たに週を選択するように求めるプロンプトが表示されます。



### Notes:

- レポート対象の週を選択するときに灰色になっている日付は、データがないという意味です。
- 実際のデータとダッシュボードの値との間に微細な差異がある場合があります。この値の差異は、計算では実際のデータを使用するが、ダッシュボードでは丸めた値を使用することにより生じます。

## 電源管理設定

「電源管理設定」レポートには、特定の日に電源管理設定が有効になっているコンピューターのパーセンテージが表示されます。2 つの異なる日付で改善状況を比較するように設定することもできます。この比較機能では、履歴電源トラッキングが有効になっている必要があります。

### Description:

The following report shows the penetration percentage of Power Management on selected computers, divided into four categories:

- Monitor Power Management
- Hard Disk Power Management
- System Standby Power Management
- Hibernate Power Management

### Select the reporting groups on which to report:

Report Grouping Policy:  ▾

Find Group names containing:

### Report Groups:

All Computers



Show results for:  Laptops  Desktops  Servers

[Select All](#)

[Deselect All](#)

Show data for date:      Compare against date:

[Generate Report](#)

## Report Options:

Store

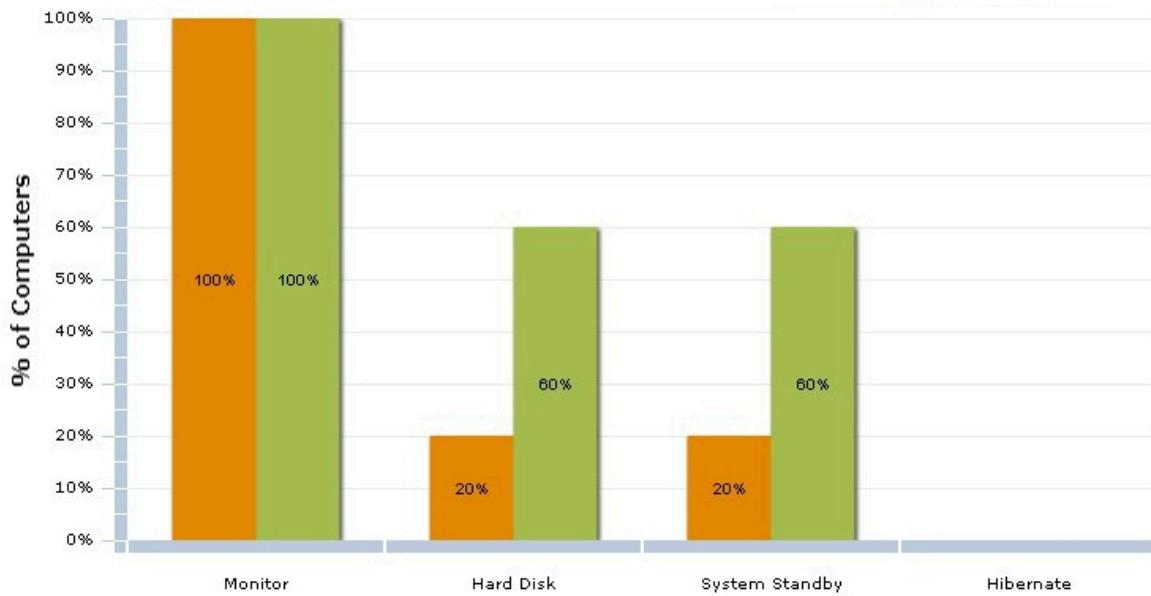
Export To PDF

Power Management Settings data comparison from 07/01/2010 to 07/15/2010 for Laptops, Desktops in the "All Computers" grouping policy.

Select Group: All Computers ▾

07/01/2010

07/15/2010



注: 「日付に対して比較」で現在の日付を選択した場合は、それまでの日付が先に計算されるため、レポートの生成にかかる時間が大幅に長くなる可能性があります。

## Wake-On-Web

このレポートは、特定のコンピューター・リストに対して Wake-on-LAN 要求を発行します。また、WoL インフラストラクチャーがウェークアップを発行するように正しく構成されていない場合は、警告を表示します。

**Enter Computer Names**

Enter a list of computer names, separated by spaces, of computers you wish to wake up.

ninjabird

**Send Wake up**

**Select Computers to Wake Up**

1 computer was found.

Computer	Subnet	Status
<u>NINJABIRD</u>	192.168.104.0/22	Can receive wake up requests

Wake request successfully sent!

## Appendix A. Support

For more information about this product, see the following resources:

- [BigFix Support Portal](#)
- [BigFix Developer](#)
- [BigFix Playlist on YouTube](#)
- [BigFix Tech Advisors channel on YouTube](#)
- [BigFix Forum](#)

## 付録 B. よくある質問

このセクションには、電源管理に関するよくある質問と回答のリストがあります。

### 省電力量はどのようにして計算されますか。

省電力量は、ご使用のコンピューターの電源は入っているが、使用されていない時間の長さによって決定されます。例えば、アイドル・モードは、コンピューターをアクティブに使用することなく電力を消費するため、無駄であるとみなされます。

省電力量は、現在の消費電力から最低消費電力を差し引いたものと等しくなります。最低消費電力とは、コンピューターの1日あたりのアクティブな状態である時間とアクティブな消費電力(例えば、70 kWh)を乗算したものです。現在の消費電力とは、アクティブ・モードおよびアイドル・モードである時間(アクティブな消費電力)に、スタンバイ消費電力(例えば、3 kWh)を加えたものです。

このような基本式は、個々の適用環境によって異なります。設定の具体的なパラメーターおよび電力の計算式の説明については、担当のセールス・エンジニアまたはテクニカル・サポートにお問い合わせください。電源管理のいくつかの主要機能で使用される計算について詳しくは、「[Power Management Calculations Documentation](#)」を参照してください。

### 省電力量の計算は、どの程度現実に即していますか。

BigFix の節電計算は、以下のように、各電源状態で消費された時間、コンピューター・タイプ(サーバー、デスクトップ、ラップトップ)、モニター・カウントなどコンピューターのさまざまな側面の追跡に基づいて行われます。これらの結果を電気料金および消費電力値と組み合わせて使用して、コンピューターが使用している電力量は算出されます。

計算ができるだけ正確になるようにするために、「想定値を管理」の値を確認し、電気料金の支払い額などのデータが組織にとって適切かどうかを検証します。

### 電源管理対策の結果が CO2 排出量にどのように影響しているかを確認できますか。

はい。BigFix 電源管理では電力のスペクトルを視覚化して、電源管理対策の結果から予測される CO2 の削減量についてのデータを提供します。

### 二酸化炭素削減量の計算で使用されるのはどのような方法ですか。

BigFix での二酸化炭素量の推計は、1 キロワット時の電力を生成するのに必要な二酸化炭素排出量の平均を明らかにした調査研究結果に基づいています。詳しくは、DOE の [Energy Information Administration](#) Web サイトを参照してください。

### 二酸化炭素削減量についての分析結果には、外部との取引や規制関連のレポート作成に使用できるだけの信頼性がありますか。

BigFix 電源管理では、キロワット時ごとの CO2 排出量の平均について、米国エネルギー省による二酸化炭素量の推計を使用しています。キロワット時ごとの二酸化炭素の排出量は、地域や電力供給源によって異なります。電力に関するコンプライアンスと規則について詳しくは、当該地域の監督官庁にお問い合わせください。

**サーバーの電源設定の誤設定によって問題が発生した場合はどうしたらよいですか。**

通常、電源設定は、サーバーではなくデスクトップ・コンピューターおよびラップトップ・コンピューターに設定されます。電源設定がサーバーに設定されている場合、管理者であれば、わずかな時間で問題を修正することができます。スタンバイ・ポリシーがサーバーで有効になっている場合にアラートを出す Fixlet が用意されています。

**電源管理対策を集中的に表示して管理できますか。**

はい。1 つの BigFix server サーバーで、最大 250,000 までのエンドポイントを集中管理できます。Web レポート機能を使用して、ご使用の適用環境を確認することもできます。

**コンピューターのグループごとに、異なる電力方式を設定できますか。**

はい。さまざまなコンピューターのグループに対して、アドホック方式を含む、各種の電力方式を適用できます。これにより、ヘルプ・デスクのワークステーションやモバイル・ラップトップなどの特定のグループを対象とした専用の設定を行うことができます。

**どのようにして、コスト、消費電力、および CO2 のデフォルト値を変更できますか。**

「カスタム想定値タスクを管理」ウィザードを使用して、各エンドポイントに対して異なるコストおよび電力の想定値を作成し、管理することができます。

**以前の電力計算と新しい電力計算に違いはありますか。**

BigFix 電源管理の新規バージョンでは、以前のバージョンより正確性が向上しているものとみなされています。新規バージョンでの改善点として、スタンバイ時間の個別トラッキング、(ある値について、適用環境全体の平均を算出するのではなく) 各エージェント・レベルでのより細分度の高い計算の実行、最近のアクティビティーに基づいて使用電力を算出するための改良されたアルゴリズムなどがあります。

**使用しているコンピューターで電源トラッキングを行うと、リソースにどのような影響がありますか。**

BigFix 電源管理の計算およびトラッキングは、比較的簡易かつ、エージェントに対して低成本です。電源管理を有効にしても、ユーザーのコンピューターに目立った影響はないと予想されます。

**Client Logging Service は何のために使用するのですか。**

BigFix エージェント・バージョン 8.0 以降には、スタンバイ時間とアイドル時間を追跡するネイティブ機能が用意されています。BigFix バージョン 8.0 のエージェントをまだインストールしていない場合は、Client Logging Service を使用して、古いバージョンがインストールされたコンピューターでこれらの値を追跡できます。

**RESTAPI が正しくセットアップされていない場合はどうなりますか?**

RESTAPI が正しくセットアップされていない場合、エラーが発生し、取得するデータが不正確になる可能性があります。

- ・「消費電力要約」ダッシュボードに表示される結果が不正確になる場合があります。このダッシュボードでは消費電力要約の分析が活用されます。
- ・Wake-on-LAN Medic ユーティリティーが影響を受ける可能性があります。WoL Medic がまだ有効になっていない場合は、「Wake-On-LAN Medic の有効化」は適用外となります。有効になっている場合、スケジュール済みの Wake-on-LAN が正しく機能しないことがあります。



注: RESTAPI は BigFix サーバーのバージョン 9.0 以降でサポートされます。

## Notices

This information was developed for products and services offered in the US.

HCL may not offer the products, services, or features discussed in this document in other countries. Consult your local HCL representative for information on the products and services currently available in your area. Any reference to an HCL product, program, or service is not intended to state or imply that only that HCL product, program, or service may be used. Any functionally equivalent product, program, or service that does not infringe any HCL intellectual property right may be used instead. However, it is the user's responsibility to evaluate and verify the operation of any non-HCL product, program, or service.

HCL may have patents or pending patent applications covering subject matter described in this document. The furnishing of this document does not grant you any license to these patents. You can send license inquiries, in writing, to:

*HCL  
330 Potrero Ave.  
Sunnyvale, CA 94085  
USA*

*Attention: Office of the General Counsel*

For license inquiries regarding double-byte character set (DBCS) information, contact the HCL Intellectual Property Department in your country or send inquiries, in writing, to:

*HCL  
330 Potrero Ave.  
Sunnyvale, CA 94085  
USA*

*Attention: Office of the General Counsel*

HCL TECHNOLOGIES LTD. PROVIDES THIS PUBLICATION "AS IS" WITHOUT WARRANTY OF ANY KIND, EITHER EXPRESS OR IMPLIED, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF NON-INFRINGEMENT, MERCHANTABILITY OR FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE. Some jurisdictions do not allow disclaimer of express or implied warranties in certain transactions, therefore, this statement may not apply to you.

This information could include technical inaccuracies or typographical errors. Changes are periodically made to the information herein; these changes will be incorporated in new editions of the publication. HCL may make improvements and/or changes in the product(s) and/or the program(s) described in this publication at any time without notice.

Any references in this information to non-HCL websites are provided for convenience only and do not in any manner serve as an endorsement of those websites. The materials at those websites are not part of the materials for this HCL product and use of those websites is at your own risk.

HCL may use or distribute any of the information you provide in any way it believes appropriate without incurring any obligation to you.

Licensees of this program who wish to have information about it for the purpose of enabling: (i) the exchange of information between independently created programs and other programs (including this one) and (ii) the mutual use of the information which has been exchanged, should contact:

*HCL  
330 Potrero Ave.  
Sunnyvale, CA 94085  
USA  
Attention: Office of the General Counsel*

Such information may be available, subject to appropriate terms and conditions, including in some cases, payment of a fee.

The licensed program described in this document and all licensed material available for it are provided by HCL under terms of the HCL Customer Agreement, HCL International Program License Agreement or any equivalent agreement between us.

The performance data discussed herein is presented as derived under specific operating conditions. Actual results may vary.

Information concerning non-HCL products was obtained from the suppliers of those products, their published announcements or other publicly available sources. HCL has not tested those products and cannot confirm the accuracy of performance, compatibility or any other claims related to non-HCL products. Questions on the capabilities of non-HCL products should be addressed to the suppliers of those products.

Statements regarding HCL's future direction or intent are subject to change or withdrawal without notice, and represent goals and objectives only.

This information contains examples of data and reports used in daily business operations. To illustrate them as completely as possible, the examples include the names of individuals, companies, brands, and products. All of these names are fictitious and any similarity to actual people or business enterprises is entirely coincidental.

#### **COPYRIGHT LICENSE:**

This information contains sample application programs in source language, which illustrate programming techniques on various operating platforms. You may copy, modify, and distribute these sample programs in any form without payment to HCL, for the purposes of developing, using, marketing or distributing application programs conforming to the application programming interface for the operating platform for which the sample programs are written. These examples have not been thoroughly tested under all conditions. HCL, therefore, cannot guarantee or imply reliability, serviceability, or function of these programs. The sample programs are provided "AS IS," without warranty of any kind. HCL shall not be liable for any damages arising out of your use of the sample programs.

Each copy or any portion of these sample programs or any derivative work must include a copyright notice as follows:

© (your company name) (year).

Portions of this code are derived from HCL Ltd. Sample Programs.

## Trademarks

HCL Technologies Ltd. and HCL Technologies Ltd. logo, and hcl.com are trademarks or registered trademarks of HCL Technologies Ltd., registered in many jurisdictions worldwide.

Adobe, the Adobe logo, PostScript, and the PostScript logo are either registered trademarks or trademarks of Adobe Systems Incorporated in the United States, and/or other countries.

Java and all Java-based trademarks and logos are trademarks or registered trademarks of Oracle and/or its affiliates.

Microsoft, Windows, Windows NT, and the Windows logo are trademarks of Microsoft Corporation in the United States, other countries, or both.

Linux is a registered trademark of Linus Torvalds in the United States, other countries, or both.

UNIX is a registered trademark of The Open Group in the United States and other countries.

Other product and service names might be trademarks of HCL or other companies.

## Terms and conditions for product documentation

Permissions for the use of these publications are granted subject to the following terms and conditions.

### Applicability

These terms and conditions are in addition to any terms of use for the HCL website.

### Personal use

You may reproduce these publications for your personal, noncommercial use provided that all proprietary notices are preserved. You may not distribute, display or make derivative work of these publications, or any portion thereof, without the express consent of HCL.

### Commercial use

You may reproduce, distribute and display these publications solely within your enterprise provided that all proprietary notices are preserved. You may not make derivative works of these publications, or reproduce, distribute or display these publications or any portion thereof outside your enterprise, without the express consent of HCL.

### Rights

Except as expressly granted in this permission, no other permissions, licenses or rights are granted, either express or implied, to the publications or any information, data, software or other intellectual property contained therein.

HCL reserves the right to withdraw the permissions granted herein whenever, in its discretion, the use of the publications is detrimental to its interest or, as determined by HCL, the above instructions are not being properly followed.

|

You may not download, export or re-export this information except in full compliance with all applicable laws and regulations, including all United States export laws and regulations.

HCL MAKES NO GUARANTEE ABOUT THE CONTENT OF THESE PUBLICATIONS. THE PUBLICATIONS ARE PROVIDED "AS-IS" AND WITHOUT WARRANTY OF ANY KIND, EITHER EXPRESSED OR IMPLIED, INCLUDING BUT NOT LIMITED TO IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY, NON-INFRINGEMENT, AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE.